

沖永良部島，与論島の
ミカンコミバエ撲滅確認調査終る

奄美群島の沖永良部島(9,455ha)及び与論島(2,082ha)について、鹿児島県知事の申請に基づき門司植物防疫所が実施していたミカンコミバエの撲滅確認調査が、昨年12月一杯で終了した。

調査は、農蚕園芸局長が定めた「ミバエ類駆除確認調査実施要領」に基づき、果実対象の寄生調査が3回、誘引剤利用のトラップ調査が17回行われたが、ミカンコミバエは全く発見されず奄美大島、喜界島、徳之島につづき、この2島でも撲滅が達成されたものと判断される。今後、農林水産省において調査成績の検討が行われ、さらに公聴会で学識経験者等の意見を聴いたうえ、発生地の指定を解除するかどうかが決定される。解除が実現すると、奄美群島全域(123,837ha)という相当広大な地域でミカンコミバエの完全防除に成功したことになる。以下両島における調査成績の概要を紹介する。

果実調査 果実に対する寄生調査は、第1回がスモモ、モモ、サルカケミカンを主対象に5月下旬～6月下旬、第2回がバンジロウ、フクギを主対象に8月下旬～9月下旬、第3回がミカン類を主対象に11月中旬～12月中旬に実施された。果実調査は3回の通算で462地点(1地点は半径約50mの範囲)、調査対象とした樹は1,143本(調査地点内に存在した寄主樹の総数は1,371本)、果実の種類は前記のほか、トマト、バナナ、パパイヤ、クダモノトケイソウ、オキナワスズメウリなど計26種類に達した。調査対象とした果実は、着生果、落果、収穫果(何れも熟果)であるが、産卵が行われやすい傷果は重点的に調査対象とされた。総

調査果数は、83,222個となり、このうち79,377個は、卵や若令幼虫の見逃しをさけるため、1～2週間容器に保管し、その後、果実を分解して綿密に調査する方法がとられた。総調査果数中には、奄美地区において従来最もミカンコミバエの寄生率の高い9～10月のバンジロウ1,509個、フクギ34,554個が含まれている。これは、この時期の両島における両種成熟果の80%程度と推定される。

調査の結果、ヤエヤマミバエ7,392頭、ウリミバエ1,358頭が確認されたが、ミカンコミバエは発見されなかった。

トラップ調査 5月下旬、沖永良部島に20個、与論島に10個の撲滅確認のための専用トラップが植物防疫官の手により架設され、6～9月は10日間隔、10月以降は15日間隔で計17回、誘殺虫の回収調査が行われた。その結果全期間を通じてミカンコミバエは発見されなかった。なお、鹿児島県が発生動向を把握するため、以前から設置しているトラップが沖永良部島に100個、与論島に20個あり、調査は継続されているが、沖永良部島では53年3月14日以降、与論島では53年4月15日以降、ミカンコミバエは誘殺されていない。



果実の保管調査